



〔秋田市観光クチコミ大使〕  
株式会社日本政策金融公庫  
南関東地区債権業務室長

ほし のり ゆき  
星 則 幸 氏

## 人のつながりが 魅力を紡ぐ

私は秋田市が好きです。それは、この街が、若い人々と街の魅力について語り合うことのできる街だからです。

今から十数年前、東京から秋田支店に赴任して2年半たった頃、秋田市に一軒家を購入しました。当時、中学1年生の娘と小学5年生の息子が、「下宿してでも秋田に残りたい」と言ってくれたことが決め手になりました。子供たちは、秋田の学校は勉強が捗ると言っていました。全国学力調査で秋田県の学力が全国一であることが報道されたのはその数年後のことです。その後、単身赴任であちこちの街に住み、内側と外側の両方の視点から街を見つめ、秋田へ帰るたびに、若い人々が集う市内の各大学、にぎわい交流館、モンパルナス通りの古書店、河辺雄和の芸術の里、ヤマキウ南倉庫、各NPO、私設図書館、哲学塾や哲学カフェ、サイエンスカフェなどのスポットや催しを訪ね、街の人々と秋田市の魅力について語り合ってきました。若い人々の秋田市を観る視点はとても新鮮です。秋田市の人口が古代ギリシャの文化隆盛を極めたソクラテスやプラトンが住むアテナイとほぼ同じで、地形や街の作りがよく似ていること。シンガポールや2年後にサッカーW杯を開催するカタールの隣に位置する中東のバーレーンなどの小国よりも総面積の大きな街であること。秋田市の降雪量は、青森市の半分で、南東北に位置する山形市や米沢市よりも少ないこと。駅近くに様々な文化施設が凝縮していて、藤田嗣治や岡田謙三の常設絵画が展示されている二つの大きな美術館、パイプオルガンのある残響2.5秒のアトリオンホール、新鮮な海産物をのせて食べられるのつけ井のある市民市場があること。川反を始めとした飲食店街には、全国誌のカクテルブックで紹介され多くの

人が訪れるバーがあり、ライブハウスやジャズ喫茶、昔懐かしいレコードを聴けるミュージックスポット、地ビールの飲めるユニークな飲食店もあり、これらのスポットの周辺を、巡回バス「ぐるる」が一日21周してつないでいること。1250円のパスポートを1枚買えば、1年間出入り自由な大きな動物園があることなど、秋田市には知られていない魅力や人の心の豊かさを醸し出すコンテンツが詰まっていることを教えてもらいました。一昨年、東京都内に転勤になり、秋田市観光クチコミ大使を引き受けました。東京で秋田の若い人々が語る秋田市の魅力を伝えると、多くの人が、瞳を輝かせて話を聞いてくれます。

地方都市の真の魅力というのは、当たり前を感じている身近なコンテンツの中に潜んでいるものなのかもしれません。急速に進む人口減、高齢化といった現状はありますが、秋田市の良さを広く伝えていくには、まずは、街の一人一人が、世代を超えて身近な人同士の日頃の会話の中で、自分自身が見つけた秋田市の魅力について語り合うことが一番なのだ実感しています。人のつながりが魅力を紡ぎ、秋田市が街の人々からも、全国の人々からも日本一の素晴らしい地方都市だと言われる日が来ることを願っています。

### ■ 略歴

- 1960年 福島県原町市（現南相馬市）生まれ
- 1983年 武蔵大学経済学部経営学科卒業
- 同年 国民金融公庫入庫
- 2000年 国民生活金融公庫秋田支店業務課長（中略）
- 2014年 日本政策金融公庫酒田支店長
- 2016年 日本政策金融公庫秋田支店長
- 2019年 現職（東京都内へ単身赴任中）